

韓国環境部プレスリリース 2020年3月5日付

## 京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 307-314 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1343030&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、3月3日に江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）中面、漣川邑（ヨンチョンウプ）および新西面（シンソミョン）広域フェンスの中で発見された野生いのしし死体8個体から ASF ウイルスが検出されたと3月5日明らかにした。

国立環境科学院は3月5日死体8個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョングン）124件、漣川郡（ヨンチョングン）100件、坡州市（パジュシ）68件、鉄原郡（チョルウォングン）22件、全国で合計314件の野生いのしし ASF 陽性事例となった。

野生いのしし ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院定員化生物安全研究チーム長は「拡散を防ぐため、新規発生地点には1,2次フェンスを迅速に設置し、既に設置した2次フェンスと広域フェンスを点検して脆弱区間に対する補強が必要だ」と話した。

以上